

教育のひろば

No. 2

姉妹都市オーストラリア・ハーストビル市への
「友好親善訪問」に参加した引率者と生徒の感想

ハーストビル市訪問を終えて

南中学校教諭 樋口 浩



今回のオーストラリア訪問は、引率とはいえ仕事上の興味、関心もあり、自分の語学研修のつもりで参加させていただきました。

今回の訪問を通して驚いたことや感動したことなどがたくさんありました。1つ目は現地の人たちが話す英語です。彼らの発音はイギリス英語が基本です。しかし、まったく同一というわけではなく、独特の発音もあるのです。実際にその発音を耳にすると「何を言ってるんだろう」と頭の中が真っ白になってしまいました。

2つ目は、食生活です。肉中心の食事というイメージがあったのですが、魚料理もたくさんあり、ホームスティ中は夕食にスパゲッティミートソースやステーキなどもごちそうになりました。



3つ目は、環境や文化の違いです。冬のオーストラリアとはいえ、雪などはめったに降らないのだそうで、見るものすべてが日本と違うオーストラリアでしたが、人として相手を思いやる心は同じでした。むしろ日本人以上に相手の気持を気遣う国民なのではないでしょうか。自分の考えを主張しながらも相手の考えを尊重する態度が、出会う人すべてに見られ、私はすごく快適な生活を送ることができました。今の日本人が忘れかけていることを思い出させてくれたような気がします。



今回の姉妹都市交流を通して様々なことを学ぶことができ、単なる思い出としてではなく、今後の日々の生活に生かしていきたいと思っております。

最後になりましたが、貴重な体験をする機会を与えていただきましたことに対して、市長さんをはじめ、関係者の皆様に対して感謝申し上げます。

2002年!“夏の思い出”

東中学校2年 山田 大進

私は、今回ハーストビル市への訪問団員として選ばれたことを大変うれしく思い、それと同時に学校代表という責任と、生まれて初めて日本を離れるという不安な気持ちを心に抱きながらハーストビル市へ向かいました。

ホームスティ先では、ホストファミリーの方々が、初めて会ったとは思えないほど親切に接してくれたので、何も心配することなく過ごすことができました。

私が一番印象に残ったことは、オーストラリアの人々の水の使い方です。オーストラリアでは降水量が日本と比べて少ないせいか、生活水も大切に使い、トイレの水の量は日本の半分で、シャワーを浴びる時間も約10秒だということです。このことを聞き、日本人はぜいたくをしているなと感じました。



二つ目に思ったことは学校の生徒についてです。ここで私がびっくりしたのは、先生が説明している時に、クラスのほとんどの生徒が自主的に手を上げて意見を述べていることです。これも日本ではあまりないことではないかなと思いました。

オーストラリアでは日本と異なり、国会議事堂は庶民のものという考えが強く、自由に庶民が入り出できる環境が整っています。それから、ここで学んだことは首都キャンベラについてです。首都の割には人口密度が低いということです。なぜなら、昔の首都はメルボルンで、第一の都市であるシドニーと第二のメルボルンが対立して、これではまずいということで、シドニーとメルボルンの中間であるキャンベラを1900年に首都にしたということでした。

私は、オーストラリアとの交流をもっと深め、他国とも交流したいという気持ちです。最後にこのようなチャンスを与えていただいた川井市長さんをはじめ、関係者の皆さん本当にありがとうございました。